

【事例5】 筑波山での自然観察会におけるイベントの開催

実施年度	連携・協働形態	その他												
事業内容	テーマ「筑波山自然発見ハイク，沢の生き物たんけん」 日時：平成14年7月28(日)9:20～14:00 場所：筑波山(真壁郡真壁町羽鳥のキャンプ場近く) 対象者：小中学生(小学3年生以上，1，2年生は保護者同伴)40名 主催者：NPO法人つくば環境フォーラム 担当者：NPO2名 講師：3名(秋山昌範，茅根重夫，池澤広美) 内容：沢登りしながら，沢に住むサンショウウオをはじめ，いろいろな水生生物を観察する。													
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			計画	実施	実施後の評価	行政				NPO			
	計画	実施	実施後の評価											
行政														
NPO														

(行政)

茨城県	教育委員会	担当課	文化課	電話	029-301-5442
-----	-------	-----	-----	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

NPO法人つくば環境フォーラムが年間計画の中で実施している行事であり，筑波山の自然の豊かさや，森の土が水を育てていることなどについて学ぶことを目的としている。

役割分担

NPO側：イベントの企画計画，実施，資料の準備，開催費用の負担

行政側：サンショウウオや水生昆虫などの水生生物の観察の指導

連携・協働によるメリット等(事業成果)

各々の役割をうまく生かしながら，事業を実施できる。

連携・協働する上で配慮した点

密に連絡をとりあいながら，実施した。

課題と対応

互いの立場，業務のしくみ，考え方などの違いを越えて，いかに協力しあえるか，よく連携をとりあっていくことが必要。

連携・協働の今後の展望

他県等でNPOと行政との連携・協働で成功している例等を参考にしながら、よりよい方向を模索していく。

当館関係では、環境教育、環境保全、自然調査などでの連携・協働が可能かと思われる。

〈協働相手のNPO〉

団体名	つくば環境フォーラム	電話	0298 63 5151
住所	〒305 0022 つくば市吉瀬 1876 番地 1 つくば文化郷別館 203 号		